ふるさと(霞ヶ浦を中心とした周辺地域)の歴史・文化の再発見と創造を考える

ふるさと

第 166 号(2020年3月)



白井啓治

(五) 春の気分は乱高下

『東風が雨を連れて戸を叩く』

時間に目覚めた。 まり、時々雨が叩きつけられるような音が聞こえ ってしまうが、雨を引き連れて吹くこともあるの 冷たい隙間風に起こされることもなく、 てきた。冷え込んでくるのかなと思っていたが、 だ、と新しい発見をさせられた。深夜から風が強 東風というとどうしても黄砂と一対のように思 何時もの

払拭してやろうと、強い香を聴いていたら「そう 時もの気分が戻ってきた。 か、雨を連れてやってくる東風もあるのか」と何 何時もより濃いコーヒーを淹れ、滅入った気分を 気分を滅入らせることにしかならなかった。 と持てていない小生には、この生暖かい風と雨は 雨が打ちつけてきた。春になる心構えのしっかり 新聞を取りに外に出たら、生暖かい強風に乗って

次の日、 良い天気になった。

梅とは違うピンクの濃い花を見つけた。桃の花か 自転車をこいで一回りしてきた。 ある家の庭に、

> ろうか。昨日の滅入った気分が何処かに飛んで行 かった。桜の花であった。川津桜? というのだ ってしまった。 と頭に思ったが、近づいて良く見るとそうではな

家に戻って、日本の樹木図鑑を開いてみた。そし 物で、サクラ属なのだそうだ。 て、大層愉快な気分になった。桜とはバラ科の植



梅、 のである。改めてこれは大層愉快なことだと思っ 其々、ナシ属、リンゴ属を形成しているのである である。 梅や桃はバラ科サクラ属という同属の植物な 梨や林檎も同じバラ科の植物であるが 杏などもサクラ属の植物で同じ仲間なの

> ということなのであろう。そう自分を労わってや ち着かぬ春の陽気に気分の乱高下しながらも、そ 度でも同じような感動と愉快を味わっている。落 の中に愉快と感動を覚えるのは当に暮らしを紡ぐ 樹木図鑑を眺め、また歳時記などを眺めながら何 先や雑木林に何かしらの移ろいを見つけ、野草や 事を思ったように思う。散歩に出かけ、他家の庭 つい数か月前の季節の移ろいの中にもこのような た。しかしこの話、去年も思ったような気がする。 (2009年3月19日)

を載せています。) 年7月より約1年間に亘り掲載されたエッセイ (本稿は故白井啓治氏が常陽新聞に2 0 0 8

《ふるさとの風に呟いて…》

すぐに実行に移す事である。でも…、と言って決 して先延ばししない事である。 やりたい事、やりたいなと思った事があったら、

更に十歩遠くに逃げていく。 返すかとその方策を考えていると、やりたい事は の場に立ち止まり、逃げた三歩をいかにして取り 思った事が三歩逃げてしまっている。そして、そ もし、始めることを一日伸ばしたら、やりたいと やりたい事があったら直ぐにそれを始めること。

他人の目を気にする。他人を思うことと気にする のは自分なのだから、 の言い訳を頭に思い浮かべる。やれない言い訳の てみたいな」と思いが閃いた時、先ずやれない事 番は、他人の思惑や目を思うことである。やる 何もやらない人、やれない人というのは、「やっ 他人は関係ないのに、先ず

と思い込んでいるのだから、大馬鹿野郎だ。してしまっている。困ったことに、それを分別だこととは全く違うことなのに、味噌も糞も一緒に

メジロがチチと鳴いて梅がほっこり膨らんで

呼応するようにほっこりとしてくる。繁にメジロが訪れチチッと鳴くと硬い蕾が鳴声にまったりしながら春を窺がっている。梅の木に頻庭の蕗の薹も陽気に添ってほっこり膨らんだり止庭り、異常、異常と言われていても、早まったり遅れ

が切実さを持って迫ってくる。くるように思え、末法思想だとか人類生滅論などひきかえ人間社会は日々に、年々に殺伐として

ないように思えてしまう。と、協調や助け合いとは単なる言葉だけでしかだろう。世界中で起きている無為な諍いを見ていが滅びるまで対立と闘争が無くなることはないのか減びるまで対立と闘争が無くなることはないのわれるが、人口の密集しすぎた人間社会には、種われるが、人口の密集しすぎた人間社会には、種

ないものになってしまう。 生は精一杯に生きなければ、はかなさが一層はか 人生は(生の世は)はかないものだから己の人

心の愉快にこそ希望がある我欲に頻わされるな

【八郷地区をちょっと紹介】 木村 進地域に眠る埋もれた歴史(58) 木村 進

石岡市が今の八郷地区と合併したのが2006 石岡市が今の八郷地区と合併したのが2006 本がだから十三年半になる。私がこの石岡市に越較的近い所に住んでいると、この山に囲まれた自むなことは知っていてもなかなか深くは知ることをしてこなかった。里山と呼ぶのにふさわしいとをしてこなかった。里山と呼ぶのにふさわしいとをしてこなかった。里山と呼ぶのにふさわしいは地域だと思っていてもその魅力をまだまだ知っている。

に分けて紹介してみたい。くご存知の方もおられると思うが、ここに何回か少し、今までにまとめている記事があるので詳し

八郷盆地と柿岡湖

にブログに載せた記事です。 これは昨年の10月に襲った台風後の大雨の後

にありたいと常に思う。 今回の台風19号は大雨による河川の氾濫で今までの日本の災害の歴史でも類を見ないほど広範囲に大きな爪あとを残した。これは超大型台風と明に大きな爪あとを残した。これは超大型台風とまでの日本の災害の歴史でも類を見ないほど広範までの日本の災害の歴史でも類を見ないほど広範にありたいと常に思う。

もなく、何故このような勧告を他市に先駆けて出でもあり増水の危険はなく、がけ崩れの危険箇所5千人)に避難勧告を出した。私のところは高台わが町である石岡市はいち早く全員(約7万

見たくなった。 見たくなった。 し今住んでいる地形を考察し、歴史を振り返って良かったのだろうと今でも思っている。しかし少良かったのだろうと今でも思っている。しかし少値別過ぎるのを待ったが、この判断で基本的には台風が迫る中、家の戸締りを今回は厳重にして、すのか疑問に思っていた。

活用ください。 調べた内容だが、もし参考になることがあればご



出したものだ。
オアート 筑波山地域」の一部の八郷地域を取り認定され、この筑波山地域を立体的に現した「ジ認定され、この筑波山地域を立体的に現した「ジ

だらかな台地上にあります。の山並みの右側の平野部から霞ヶ浦続く比較的な山)、鐘転山の山並みです。旧石岡の市街地はこ上側が真中の板敷峠から吾国山、難台山、(愛宕図の左側が筑波山、足尾山、加波山と続く山並み、

栽培で知られる真家地区がある。の丘公園」などがあり、北側は園部地区や献上柿その境目は、南側には「龍神山」や「常陸風土記八郷地域と右側に広がる旧石岡地域に区分され、八の地図で見ると上図のように山に囲まれた旧



郷盆地が良く見下ろせる。郷盆地だ。また西側の峰寺山西光院からもこの八この写真は北側の吾国山付近の尾根から眺めた八

地区から柿岡方面を眺めたものです。次の写真は石岡市街地側から県道7号線で下林



いるのが解りる。
に目に飛び込んできて、この盆地一体が広がってから八郷地区に抜けて出てくるとこの地区が一気また近年開通した朝日トンネルを土浦市小町地区がった盆地の地形をしているのがわかる。
いるのが解りる。

もおられるようですが、火山の跡は確認されてい大昔に火山でもあったのかもしれないと感じる方地図を見てまるでカルデラ地形をしているから、

ません。

による侵食により形成されたと考えられています。となったとされています。そのため山頂付山の形となったとされています。そのため山頂付山の形となったとされています。そのため山頂付山の形となったとされています。そのため山頂付山の形となったとされています。そのため山頂付地で変動によって隆起し、侵食されて今のような地の変動によって隆起し、侵食されて今のような地の変動によって隆起し、侵食されています。というないでは、大き地下にあった日本ジオパークでの説明では、大き地下にあった日本ジオパークでの説明では、大き地下にあった日本ジオパークでの説明では、大き地下にあった日本ジオパークでの説明では、大き地下にあった日本ジオパークでの説明では、大き地下にあったようによっています。

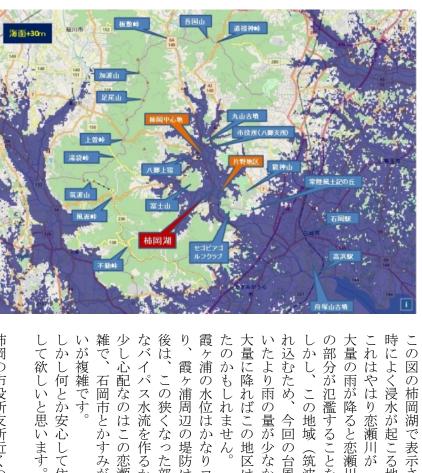
って現在の筑波山になったといいます。で固まり、深成岩が出来、この硬い部分だけが残こに約6千万年前頃に大量のマグマが入り込ん前には堆積してできた砂岩、泥岩があったが、そではいつ頃かというと、まず海底には2~3億年

及丘)に分類されます。 八郷盆地は大きく3段の高さに分類され、十数万 八郷盆地は大きく3段の高さに分類され、十数万 八郷盆地は大きく3段の高さに分類され、十数万 八郷盆地は大きく3段の高さに分類され、十数万 八郷盆地は大きく3段の高さに分類され、十数万 八郷盆地は大きく3段の高さに分類され、十数万

し検証してみたいと思います。 岡湖といわれる湖があったといわれているのを少この中位高さの標高27~45mの地区には大昔柿

を上昇させてシュミレーションができます。洪水使うのは Flood Maps という地図ソフトで、海面

予測するのにも使えます。などの検討が容易ですが、このように昔の地形を



は後から付けられたものです) 来たのかはわかりませんので、この柿岡湖の名前どうですが、大きな柿岡湖(柿岡の地名は何時出どうではまず、海面を+20m上昇させて見ます。

ても良いのではないでしょうか。在してこのような湖地形となっていたものと考え湖は恋瀬川が五輪堂橋上流側に滝のような物が存

島であったと思われます。 八郷盆地の中にある富士山はこの湖に飛び出した

時によく浸水が起こる地区です。この図の柿岡湖で表示された地区が恋瀬川の氾濫が狭くなっていて滝が存在したように思われます。この時もやはり恋瀬川は五輪堂橋と片野地区の間

たのかもしれません。

大量の雨が降ると恋瀬川が雨水を流せ切れずにそた量の雨が降ると恋瀬川が雨水を流せ切れずにそれ込むため、今回の台風ではこの地域には恐れてれ込むため、今回の台風ではこの地域には恐れてれ込むため、今回の台風ではないます。

しかし何とか安心して住めるように対策は早急にといいで複雑です。

り、霞ヶ浦周辺の堤防は整備が終っています。

り、霞ヶ浦周辺の堤防は整備が終っています。

り、霞ヶ浦の水位はかなりコントロールがなされてお

円山古墳のすぐ西側です。わめきばし)」という橋が架かっています。柿岡の市役所支所近くの恋瀬川に「百目鬼橋(ざ

ら名付けられたもので、

各地に似た名前の地名が

百目鬼=ざわめき という名前は川の流れの音か

ています。いますが、石岡の地名では「ざわめき」と呼ばれどめき」「どうめき」「どめき」などと呼ばれて同じ漢字を使うところでもその多くの読みは「ど散見されます。

ところはありませんでした。溜まった痕跡はありましたが、車の通行も危険な水量はかなり多く濁っており、少し周辺には水が

しょう。 いましたので、無人で遠隔でも水位が分かるので この橋には自動で監視できる水位計が設置されて

穀物製粉所があったといいます。 でして昭和初期まで水車がおかれ、精米、精麦、いらザワメキと名付けられたようです。このため、からザワメキと名付けられたようです。このため、からがロメキと名付けられたようです。この滝の音記録によるとこの百目鬼(地名では高友)で川は記録によると

れていたようです。れて「大江沼」とよばれる沼が江戸時代頃迄残さ一方もっと下流の片野地区も恋瀬川が堰き止めら

必要でしょう。 うですが、今の豪雨の傾向を見ると更なる改善がその頃から何度か恋瀬川の工事も行われて来たよ

我が労音史(16)

木下明

中から学んだ内容を記述していきます。労音改革の責任者の一翼を担う様になり、実践の音の中心活動家として参加しています。そして、20代に参加した労音運動は、1970年からは労

1986 年の社会情勢と音楽状況

領のマルコスが追放される。チェルノブイリ原子ィリッピンの大統領にアキノ夫人が当選し前大統「チャレンジャー」が爆発し乗員 7 名が犠牲。フアメリカの宇宙開発に打撃、スペースシャトル

会談が失敗し、恐怖の均衡が残る。 会談が失敗し、恐怖の均衡が残る。 会談が失敗し、恐怖の均衡が残る。 会談が失敗し、恐怖の均衡が残ち。 大曜八を起こし全島民が島外に避難。自民党税が大噴火を起こし全島民が島外に避難。自民党税が大噴火を起こし全島民が島外に避難。自民党税が大噴火を起こし全島民が島外に避難。自民党税が大噴火を起こし全島民が島外に避難。自民党税が大噴火を起こし全島民が島外に避難。自民党税が大噴火を起こし全島民が島外に避難。 大郷で自民党が圧勝。国鉄分割・民営化が決まる。 大郷で自民党が圧勝。国鉄分割・民営化が決まる。 大郷で入事がが発生し大量の放射能力発電所(ソ連)で大事故が発生し大量の放射能力発電が失敗し、恐怖の均衡が残る。

国文化フォーラムが開催。

設される。舞台入場税反対連絡会議の主催で、全を企画し開催。この年サントリホールが溜池に建ソン河畔でハイテクコンサート(シンセサイザー)帰国し公演。冨田勲(作曲家)がアメリカのハドホロヴィッツ(P)が 61 年ぶりに祖国ソ連にホロヴィッツ(P)が 61 年ぶりに祖国ソ連に

この年逝去された著名な音楽家・文化人は、北この年逝去された著名な音楽家・文化人は、北この年逝去された著名な音楽家・文化人は、北この年逝去された著名な音楽家・文化人は、北

986 年の労音の動き

これらのことを決めた。

一回国民音楽祭 が始められたと分析。その一方、で買による"冠コンサート"が増加し、新たに第の民営化と下請け化・効率化が進行し、行政と大の民営化と下請け化・効率化が進行し、行政と大き唱えた中曽根内閣の右翼的且つ反動的な政治がを唱えた中曽根内閣の右翼的且つ反動的な政治がを消失しての分析では、「戦後政治の総決算」を引きいる。

る状況が報告。 "難民救済キャンペーンコンサート"が開催される動きと、国家機密法案に反対する文化知識人のる動きと、国家機密法案に反対する文化知識人のるする、国家機密法案に反対する文化知識人の

に努力をする。具体的には事務局体制の大幅縮小(専従者の減)し活動改善事動の総括として,運動力量の全般的低下から

- 済的独立体制を図る。2)ブロック委員会主導の元に委員を育成し、経1)委員役員が先頭になり民主的運営を進める。
- 指す。 3)事務局依存の活動を改善し自立活動形態を目

そして運動目標は

- め年間の会員登録を 30000 人にする。1)10000 人の会員、1000 サークル、入退会を含
- する。2)300人の委員と月刊音楽400人の読者を達成
- 3)都内の全区、及び三多摩に地域委員会を作る。4)基本スローガン「企画運営は会員の手で」を生かした運動を目指す。サークル活動の力で、地生かした運動を目指す。サークル活動の力で、地生かした運動を目指す。

番組で放映され、バレェ界に大きな影響を与え、プリセツカヤの公演は、NHKの特別番組と中継唱)に加え各地域に於いての地域例会が特徴です.オラトリオ・森の歌(大合唱)、第九交響曲(大合メタナトリオ(室内楽)、Mカーノ(Fギター)、スターたち」、ブーニン(P)、シェバノワ(P)、スサンブル」、「プリセツカヤとソビエトバレェのスサンブル」、「プリセツカヤとソビエトバレェのスサンブル」では全国共同企画「グルジア民族アン

感動を与えた。 席にした。山下洋輔(ジャズピアニスト)例会で 第 11 回ショパンコンクール優勝のスタニスラ バレエ愛好者の期待に応えました。また、85 楽会の公演で、 自作のピアノ五重奏(初演)など、クラシック音 は、ガーシュイン・シューマン・ドボルザークと 招聘し労音で募集した会員合唱団で 2 例会を満 バルツアーA/バルディンT/カシマイュB)を ッパで活躍しているソリスト(メンゲドートS/ 第九例会は、日フィル(ルカーチ指揮)とヨーロ してきた、故北川剛氏を追悼する例会でもあった。 オケを育てた村川千秋氏指揮と長年合唱団を指揮 名を組織し大成功でした。此の合唱例会は、 労音交響楽団そして会員の参加で 2 例会、 リオ「森の歌」を、演奏サークルの労音合唱団と 音楽文化交流を地道に積み上げてきた成果です。 は、労音運動が長年に渡って、民間ベースの日ソ 国技館で低料金で開催し、要求に応えた。これら 追加公演「青年と学生に贈る特別演奏会」を両国 日当日に完売となる。東京労音は状況に対応して、 のブームとなり、全国 18 回の公演チケットは発売 聴衆に支持を広げた。その演奏会への期待は空前 来のクラシックファンを超えて、よりたくさんの フ・ブーニンの公演は、卓越した演奏力量が、従 大合唱では、 ショスタコヴィッチ作曲のオラト 敏捷重厚な技法を駆使し、 聴衆に 2400

隊が30ヶ所のサークル・職場に入り成功の役割をこぶし座の事前取り組みでは、半月間に渡る分工ぶ」が地域の独自例会として催された。中でも、ぶし座」(4回)「花かご」「梅原司平」「花しょうぶし座」(4回)「花かご」「梅原司平」「花しょう「鈴木きよしコンサート」(8回)「民族歌舞団こ「鈴木きよしコンサート」(8回)「民族歌舞団こ

成果を生んだ。「佐々木幸男」「笠木透」等が取り組まれ、其々の「佐々木幸男」「笠木透」等が取り組まれ、其々の山浩子」「高橋真梨子」「高石ともや」のソロコンとなった。ポピュラー例会では、大ホール例会「谷果たした。この年の地域例会の組織数は前年の倍果たした。

楽会や催事が増加している問題と入場税問題につ がなされる。最近の企業・公共団体主催による音 サークル活動の 5 分科会に分かれて活発な討議 れた。会議は、 絡会議は(64 団体 181 名)新潟県柏崎市で開催さ から70名) して開催された。第32回全国労音連 催の労音大学は姫路で 22 団体 544 名が参加 (東京 労音から 180 名が参加し、経験交流と学習を目的 係諸団体に提起することを決定した。 改善を求める決議」を満場一致で採択、 ピールするのに「入場税撤廃と文化行政の抜本的 いて、労音がとる姿勢と主張・要求を明確にアッ に二日間を過ごした。冬の友交際は上越国際スキ 場、夏の友好祭は武尊牧場で開催、 例会外の取り組みとして、新春交流会は関東各 組織・例会・大合唱・会員制度・ 播州労音主 各地の関



石岡市指定文化財 (二十)

街地を温かく包み込んでくれました。 お型コロナウイルス感染拡大の報で、オリンピックをはじめとして、さまざまック、パラリンピックをはじめとして、さまざまック、パラリンピックをはじめとして、さまざまック、パラリンピックをはじめとして、さまざまック、パラリンピックをはじめとして、さまざまック、パラリンピックをはじめとして、オリンピック、パラリンピックをはじめとして、オリンピック、パラリンピックをはじめとした。

した。 「特別展示場」石岡駅西口市民文化伝承館」では 特別展示場」石岡駅西口市民文化伝承館」では 有ちどおしい恒例の歴史絵巻情景飾り。今回は「俊 有いに では毎回 特別展示場」石岡駅西口市民文化伝承館」では もた。

らしい雛さま達に思わず笑みをかけました。優雅な姿でお出迎え。工夫された竹筒の中での愛き佇まいの中で(二階にも)雛さま達、誇らしく、常設展示場 まち蔵藍 では江戸後期の古き良

不詳

っているかのようでした。で使用されているケースに入り約一世紀の命を誇と歴史館では、大正十年作の雛さま達、歴史館内私が時折受付当番をしております石岡市ふるさ

六十六件の雛巡り協力店の皆さんお疲れ様でご

の為に有難うございました。ざいました。今年もあたたかなまち石岡の雛

昭和五三・八・二三州中雑記 有形(古文書) 国府三丁目―― 本題の文化財紹介に入ります。

元禄の頃より平村と書たる多し、古説色々あれ共諸記にみへず、天和貞享の頃より少々見ゆ、就中一 當地を平村に書事、慶長より寛文延宝の頃迄一 荷の地誌 教育委員会発行より

七)・元禄(一六八八~一七〇三)(一六八一~一六八三)・貞享(一六八四~一六八~一六七二)・延宝(一六七三~一六八〇)・天和~一六七二)・延宝(一六七三~一六八四)・寛文(一六六一巻)・元禄(一五九六~一六一四)・寛文(一六六一

ビー、二僧居ケルカ阿弥陀ト云、今按ルニ尼寺破壊ノ後、庵室ヲムス下位置云者ノ裏ニ少ノ杉森有テ此地ニ古石碑アリ、ニ尼寺先西寺ト云アリ、此辺ニ今土橋町風間何某ー「今御陣屋ノ下ノ池ヲ上ハ池ト云也、此地ノ北

始まりを列記いたします。されています。参考までに最初から五項目の文の項目、後半は平仮名混じりで三十余りの項目で記とこのように、前半は片仮名混じりで六十余りの

- 一 雫ノ田井ハ今中雫ヨリ………
- 小目代ト云人アリ………
- 田崎勘ヶ由ト云人アリお z………
- 今ノ東蓮寺ハ………
- 一 岩城内近衛所家ハ………

今回参考としました府中雑記掲載資料お勧めする「府中雑記」ご一読おすすめします。の歴史を知る無二の資料であり、宝典である」とどうぞ、石岡史蹟保存会の皆様が「由緒ある石岡

石岡市郷土資料第二号 石岡史蹟保存会発行石岡の地誌 石岡市教育委員会発行

菅原茂美さんを悼む

い。ご冥福を心よりお祈り致しております。い。ご冥福を心よりお祈り致しております。(風間呼吹ださまにつきましては私が当会報一五七号にで、で原さんはこの地球上に関する事全で、動物学、で、で原さんは二の地球上に関する事全で、動物学、で、で原さんは二の地球上に関する事全で、動物学、で、で原さんは二の地球上に関する事全で、動物学、でした。どうぞ故白井代表と存分に語り合って下さした。どうぞ故白井代表と存分に語り合って下さした。どうぞ故白井代表と存分に語り合って下さした。どうぞ故白井代表と存分に語ります。

みなと会えぬと大泣き 孫息子

血と屍の上で

いるだろうと時々思う。 大河ドラマで、麒麟がくる"を放映している。 大河ドラマで、麒麟がくる"を放映している。

玉里には"六井六畑八館八艘"という玉里地区を代表する言葉がある。八館の一つ、高崎館跡が 現在の生涯学習センター・コスモス周辺の一帯だ。 現在の生涯学習センター・コスモス周辺の一帯だ。 利は朝、犬との散歩に、高崎地域、霞ケ浦の水辺、 各津の山道、台の畑道をよく歩く。四季折々の色 合いと澄んだ空気の中で多くの人が生きて命を今 の私達に繋いでくれたことを有難く思いながら、 幸せを感じ歩く中に小さな物語りが生まれた。又 幸せを感じ歩く中に小さな物語りが生まれた。 大きく係わっていたのだと再確認した思いで、と 大きく係わっていたのだと再確認した思いで、と ても身近かに思えた。

毎日篠竹を分けて登る。はない、というより道をつくらないように歩く。を歩いて行く後からついて行く。館に行くには道って仕事をしていた。三助は二人が楽しそうに先だが、二番目の兄と隣りの姉ちゃんと毎日館に通三助は浜辺の漁師の孫だ。十才になったばかり

当たらないそっぺで、水捌けもいいのだという。畑へ向かう。市海道を下って左側は、北風西風が掃除が終わると爺ちゃん、婆ちゃんが働いているなのだ。二人は館の中での作業に分かれて行った。荷の掃除。館は府中さまの出城だから館は守り神「目を突くな」と、兄ちゃんは怒鳴る。三助は稲

先祖が塚守りをしていた人達の住んでいる部落も ち取ったりした。

下っ端共が喋っていたと大笑いしていた。体の汚れもとれるが、水辺の訓練も一層力が入る。体の汚れもとれるが、水辺の訓練も一層力が入る。体の汚れもとれるが、水辺の訓練も一層力が入る。ないないようにと、走り廻っての騒ぎだったと、かりないようにと、走り廻っての騒ぎだったと、かりないようにと、走り廻っての騒ぎだったと、

りお互いに支え合って楽しい時も沢山あった。 たと聞いた。貧しい中、厳しい中にも、 どんな訳ありか赤児を負った女が山を登って来る りない様子、船着場、虎の口辺りも寝ずの番だと いう。冬は履物、着る物、冠る物も多く、足りな という。哀れに思い事荒だてることもなかったと か、市海道の通行人も調べも厳しくなった中で、 る者は、市海道の人の数や動きにも目配りは抜か 狼煙は、水辺の船は異常ないか、山々を登ってく 感が漂い、守りも厳しくなった。対岸の山々から 持たせてくれた。いざという時に備えて日々緊張 算段が大変らしい。土地の年寄り達が毎日品物を が増えれば食料の量も多く必要になる。遣り繰り て集められる。冬に備えての準備も多くなる。人 いだろうと自分たちの寒さもいとわず届け物をし 秋取り入れがすむ頃には、土地の男達が兵とし うのだった。 かる。一度海道迄連れて行ってやろうと三助は思 に出ない母にとっては想像して喜ぶ様子がよくわ いった。館での仕事、稲荷の社の掃除のこと、外 離れ離れ、一言づつ話しても八ツの話しが聞ける。 夜のあったかい汁と家族の顔が馳走だった。昼は 急ぐ足は軽い。昼のにぎり飯だけでは腹が減る、 にいた。その日は、何事もなく終わった。家路を が浮かんできた。黒とも紺ともはっきりしない中 くっきり見えるだけ、森に近づいたのだろう、木々 道もない。 向かうところだった。空の流れも、周りの景色も あまり周囲の事に気が付かなかったが、その朝は 大井戸の館の若大将が馬を走らせて、府中方面に 一色に包まれて何ら変化がないのに気が付いた。 とても感動した。朝靄のかかった道を歩いて館に 三助は一年経つ中に逞しくなっていった。今迄 家も見えない。歩いている足元だけが

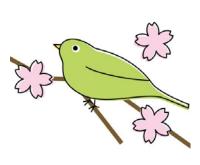
春は喜びが大きい。花も咲く、草木が活動を始る。大きい兄も戻ってきて親達と仕事に精出しめる。大きい兄も戻ってきて親達と仕事に精出しめる。大きい兄も戻ってきて親達と仕事に精出したいる。三助と時だった。ある時一人で出かけ、ら館にむかう毎日だった。ある時一人で出かけ、ら館にむかう毎日だった。ある時一人で出かけ、ら館にむかう毎日だった。ある時一人で出かけ、ている所が若葉の木々と、他の木立がよく見える。その調和を見ながら行くと、刻々と暗になっている様が美しい。三助が奈加と会ったのは、そんなく様が美しい。三助が奈加と会ったのは、そんなく様が美しい。三助が奈加と会ったのは、そんなく様が美しい。三助が奈加と会ったのは、そんなく様が美しい。三助が奈加と会ったのは、そんなく様が美しい。三助が奈加と会ったのは、そんなく様が美しい。三助が奈加と会ったのは、そんなく様が美しい。第2とでは、対している。この道を来た様子だのよりでは、おいいのである。一緒に家を探すて異常に不気味だったのだろう。一緒に家を探すている。大きい兄が大きい。花も咲く、草木が活動を始める。大きい兄が大きい。花も咲く、草木が活動を始いる。大きい兄が大きい。

たさく小高い塚が暗闇に浮かび上がっていた。奈大きく小高い塚が暗闇に浮かび上がって別れたが、一人戻る道は辛かった。が何か暖かい思いを感じてがら早足になっていた。その後、その辺りに差ながら早足になったいた。が何か暖かい思いを感じたは下り坂だった。何度も礼を言われて別れたが、とれからどれくらいの月日が流れたか、小河城とそれからどれくらいの月日が流れたか、小河城とそれからどれくらいの月日が流れたか、小河城とやれからどれくらいの月日が流れたか、小河城とやれからどれくらいの月日が流れたか、小河城とがは見えがあると気になったが、会の戦いで取手館が焼けた時、府中の出城だった。その戦いで取手館が焼けた時、府中の出城だった。その戦いで取手館がある。

大い。玉里村時代に此処に文化センターを造ったのは玉里村時代に此処に文化センターを造ったのは五里の文化の中心地として未来の人達方を持って玉里の文化の中心地として未来の人達方を持って玉里の文化の中心地として未来の人達方に上解だったと思う。野外劇場風にしてはといまに正解だったと思う。野外劇場風にしてはといました。

を口にしながらの人もいるが、それはそれ、私は 境内の掃除も年二回行われてきている。不平不満 荒れた山の竹退治、 明治頃にかけては、笠間稲荷を凌ぐ程の勢いだっ いでいきたい。 の血と屍の上で生きているのだから良い時間を紡 も地味にやっていきたい。私たちは多くの人たち 位続いている。人数は少なくても時間はかかって していく積りで協力者を募ると見つかって十ケ月 社殿左側に押し込められていた文書、古物を整理 頑張ってやっている人に力を貸していきたい。 ンティアも挙って、ここ十数年続いている。社殿、 は四苦八苦しているが、地区上げて頑張っている。 根を直す計画が進められている。特に資金作りに たと聞く。現在若いリーダーのもとで、社殿の屋 は上高崎地区と下高崎地区の社である。近世から 館の守り神から、高崎村の村社となった。現在 館山神社となっている所は、 草刈りも区長、 常会長、ボラ 時代を重ね

も貴女と共に確かり生きていきます。る風の下で確かり生きておられるのでしょう。私和子さん 貴女も日本アルプスから吹き付け



旧土浦中学校本館 小

初めて訪ねてみました。学校本館」がにあることを御存知ですか? 茨城県土浦市に国指定重要文化財の「旧土浦中

校舎です。 もう1 0 0 年以上の歴史を有する旧制中学校のいますが、本館は 1904 年(明治37)に竣工され、いますが、本館は 1904 年(明治37)に竣工され、旧土浦中学校は現在土浦第一高等学校となって



た。 強いゴシック風建造物で、一段と斬新なものでし 我校舎が一般的であった時に、西欧風イメージの 物で、しかも当時装飾性などが全くないバラック この本館は、明治時代の数少ない本格洋風建築

てきました。そうした観点から、1976年(昭和51土浦一中本館はその特色ある原型を十分保ち続け旧制中学校校舎の多くが姿を消していく中、旧

に登録されました。年)旧制中学校校舎として全国初の国重要文化財

場所にもなりました。NHKの朝の連続テレビ小説「おひさま」の撮影タイムスリップと感じました。

ています。木造平屋建ての凹字形の左右対称の平面構成を

が造られていました。とても美しかったです。一今の土浦一高本館の裏側にあり、西洋式の庭園



駒杵勤治の設計であることが分かりました。

いいのでは、1974年(昭和49)、玄関屋根裏から設ましたが、1974年(昭和49)、玄関屋根裏から設ましたが、1974年(昭和49)、玄関屋根裏から設ましたが、1974年(昭和49)、玄関屋根裏から設ましたが、1974年(昭和49)、玄関屋根裏から設ました。

駒杵勤治(1878~1919)です。

た。駒杵勤治は当時わずか25歳で東京帝国大学を帝国大学工科大学校出身で、辰野金吾の弟子でし

技術と模様などが素晴らしく凄いです。長年、大時に国の重要文化財に登録された。り、その講堂が現在も残されており、こちらも同常陸太田の太田中学(現太田一校)も手掛けてお卒業して日も浅い青年であったといいます。

切に保ち続けて行きたいですね。 技術と模様などが素晴らしく凄いです。長年、

《一般公開》

校の敷地内にあります。 旧土浦中学校本館は、茨城県立土浦第一高等学

浦第一高等校にご連絡ください。 駐車場や公開に関する問い合わせは、直接、土

TEL:029-822-0137

父のこと(19)

菊地孝夫

[今は昔の物語]

ったが、半分もわからない。も見つからない。市立図書館の辞典もいくつか当漢字辞書を使うのだが、10文字ほどがどうしてけれど、漢字の変換に苦労した。内蔵されている常陸旧地考を読んで、パソコンに入力したのだ

た挙句、読みは嬥歌(ちょうか)と有った。くると、そこには載っている。様々な辞書を当ったると、そこには載っている。様々な辞書を当ったが、孑の一つが、嬥歌(かがい)である。広辞苑が

この茨城に西からの侵略遠征軍が入ってくる以一(うたがき)の事、ともある。釈託とある。朝廷で行われていた、いわゆる歌上代、東国で行われていた歌舞による一種の婚

ではないかと思われる。いた「歌垣」とは明らかにその性格を異にするの風習であって、近畿圏あるいは九州圏で行われて前から、土着の住民らによって広く行われていた

れてある。 女が行を以て徐(おもむろ)に進み云々」と書か」な辞苑の歌垣の項には、続日本紀・巻三十「男

ったものを踏襲したものです。れぞれの列が、音楽に合わせて交互に交錯して踊ば九人九列・八十一人で正方形に隊列を組み、そこれは、古代中国の宮廷で、女の踊り手が例え

二五人で行ったりもする。いて、王侯の位階によって例えば時には五人五列、いて、王侯の位階によって例えば時には五人五列、ついてこと細かに規定した書籍が代々伝えられて中國の古代王朝には、王侯貴族の前での歌舞に

採れないと思う。

東国で行われていたのは、明らかに恋人を得る東国で行われていたのは、明らかに恋人を得るしたのは、豊株がおこなわれだしたのは、近畿ありますが、農耕がおこなわれだしたのは、近畿をりますが、農耕がおこなわれだしたのは、近畿を別ますが、農耕がおこなわれだしたのは、近畿を別ますが、農村がおこなわれていたのは、明らかに恋人を得る東国で行われていたのは、明らかに恋人を得る

る。)本来の農耕とされるものとは少し遠いように思え(栗の木を植林していたという説もありますが、

される。や掛け声や或いは囃子歌などを歌ったものと想像や掛け声や或いは囃子歌などを歌ったものと想像たり激しく躍動し、周りを囲む人たちが、手拍子未婚の女たちが精一杯着飾って、飛んだり跳ね

味で嬥の字をあてたものと思われますがいかがで広くこうした風習がありました。これに跳躍の意中国南部の、いわゆる蛮族と呼ばれた民族には

しようか。

或いは真珠だったのかもしれない。留めたまるまると太った鴨だったかもしれないし、げ其の歓心を引こうとしました。贈り物は弓で仕げまの歓いを引こうとしました。贈り物を捧りたちは、これぞと思う女に対して贈り物を捧

とがあります。)れにではありますが、天然の真珠が生成されるこれにではありますが、天然の真珠が生成されるこくがあります。

しれない。 て、自分の狩猟能力の高さをアピールしたのかも 男たちは、猪の牙をいくつも連ねて首飾りにし

短歌などを作ったりしたのだろうか。の輪には入れてもらえず、しかたなくつまらない引っ張り出され、果実酒などを飲まされて、踊り都から派遣された役人たちは、無理やり宴会に

の男女から手拍子や掛け声が響く。と聞に周りンカンと叩き、葦の笛を器用に吹く。合間に周り屈強な男たちはうろになった枯れ木を力任せにカもに始まったうたげはいつ果てるともなく続き、・・・煌々と照る月明かりのもと、夕暮れとと

る広大な手つかずの森が黒々と広がる。 この東国の地の、歌に詠まれた名峰の麓に広が

いが漂ってくる。

はてある瓶からは、食欲をそそるいいにおる。載せてある瓶からは、食欲をそそるいいにおけるように姿を消していく。

はないである瓶からは、食欲をそれのいにおる。載せてある瓶からは、食欲を

が、「これはお役人様、山で採れた猿酒という山ブにしてはならないと触れを出してあるはずなのだ本当は、都へ送られる穀物は、一粒たりとも酒

いものだと、深いため息をつくのであった。した妻女が浮気してはいまいか、早く都に戻りたもしれない自慢話を聞きながら、もしや故郷に残任の役人は、隣の酩酊した老人の、いつ果てると「このうたげに招かれた、都から来たばかりの新ドウの酒だ」とかごまかしを言っている。

掛かって来るのではないか。 考えたりした。この人のよさそうな老人が、豹変 らず焼き殺したこともあるという。こうしたこと うとすれば、頑強に抵抗する。ある所では、 わからない。このあたりの者達はなかなか都の習 る娘たちが、手に手に刃物を持っていまにも襲い して襲い掛かってくるのだろうか。踊り狂ってい かれはしまいかと、もうろうとする意識の中で、 が、あちこちで有ったと前任者から聞いていた。 いう事を聞かされた。集落全員を捕えて、一人残 には村中、女子供までことごとく皆殺しにしたと に出てはこないし、無理やりいうことを聴かせよ 俗に同化しようとしなくて、呼び出してもめった らないせいもあって、何を言っているのか半分も 東国のきつい訛りのせいと、酔ってろれつが もしかすると、この宴会に事寄せて、寝首をか つい

前任の役人は病死と聞いていたが、ひょっとするとこの者達の手にかかったのではないか?る。さっきから酌をしてくれるのは、この者人ののが入れられたのを、目の隅で見たような気もすのが入れられたのを、目の隅で見たような気もすらの様子を窺っている。昨日、以前からいるこちらの様子を窺っている。昨日、以前からいるれた娘を、あわよくば押し付けようとしているかれた娘を、あわよくば押し付けようとしているが、ひょっとす

なみなみと注がれた酒をぐっと飲み干した。・・・のなみなみと注がれた酒をぐっと飲み干した。・・・のくの地で日に焼けた現地妻を娶って、朽ち果ちのくの地で日に焼けた現地妻を娶って、朽ち果ちのくの地で日に焼けた現地妻を娶って、朽ち果ちのくの地で日に焼けた現地妻を娶って、朽ち果ちかといえば見下すような言動をする妻にもとうか、とも考えてるのも悪くはないのではなかろうか、とも考えてるのも悪くさいがいか。どうせ都へ戻ったところなみなみと注がれた酒をぐっと飲み干した。・・・なみなみなみと注がれた酒をぐっと飲み干した。・・・

しい時間でもあった。とまあ、好き勝手にこうした想像をするのは楽

なゝ。 んだのがかえって結果的にはよかったのかもしれんだのがかえって結果的には予備知識もなく取り組闘した成果である。ろくな予備知識もなく取り組か読めるようになってきた。数か月にわたって格とても読めないと思っていた崩し字なども何と

うことだ。 鹿島神宮には、その昔こんな伝承があったとい

手織りの物である。のことだという。帯は勿論この乙女が自ら織った名前が表になって見えれば、この恋は成就すると垣根にかけておく。風で翻り裏返しになって男の思いを寄せた男の名前を、帯の裏に書きそれを

書きこむ。人目をはばかりそっと帯を掛ける。そのかもしれない。乙女たちがせっせと機織りに精のかもしれない。乙女たちがせっせと機織りに精のかもしれない。乙女たちがせっせと機織りに精のかもしれない。 四女にちがせっせと機織りに精いにしえの鹿嶋神社の垣根には、いくつもいく

神仏や大自然に委ねようとするのだろう。いつの時代にも、恋する者は、その熱い願いを、

「昔話について」(三) 木村 進

怪談話「こんな晩」「六部殺し」など(その一)

た月の「百合の精」で、夏目漱石の夢十夜、第年で、第三夜のすこし怖い話があります。

まずは、夏目漱石の小説からです。

(1) 夏目漱石 夢十夜の第三夜

分の子である。 一六つになる子供を負ってる。慥(たしか)に自

坊主になっている。ただ不思議な事には何時の間にか眼が潰れて、青

人である。しかも対等だ。 声は子供の声に相違ないが、言葉つきはまるで大に昔からさと答えた。 自分が御前の眼は何時潰れたのかいと聞くと、な

ぎ)の影が時々闇(やみ)に差す。 左右は青田である。路(みち)は細い。鷺(さ

なか)でいった。 「田圃(たんぼ)へ掛(かか)ったね」と脊中(せ

るようにして聞いたら、「どうして解(わか)る」と顔を後ろへ振り向け

「だって鷺(さぎ)が鳴くじゃないか」と答えた。

鳴いた。 すると鷺が果(はた)して二声(ふたこえ)ほど

らない。 を脊負(しょ)っていては、この先どうなるか分を脊負(しょ)っていては、この先どうなるか分

あすこならばと考え出す途端に、脊中で、「ふふん」を見ると闇の中に大きな森が見えた。どこか打遣(うっち)ゃる所はなかろうかと向う

という声がした。

といった。「重かあない」と答えると「「今に重くなるよ」「重かあない」と答えると「「今に重くなるよ」ただ「御父(おとっ)さん、重いかい」と聞いた。「何を笑うんだ」「子供は返事をしなかった。

行った。 自分は黙って森を目標(めじるし)にあるいて

に出られない。田のの中の路が不規則にうねってなかなか思うよう

「石が立ってるはずだがな」と小僧がいった。は股の根に立って、ちょっと休んだ。しばらくすると二股(ふたまた)になった。自分

原(ほったはら)とある。表(おもて)には左り日ケ窪(ひがくぼ)、右堀田に立っている。

もり)の腹のような色であった。闇だのに赤い字が明かに見えた。赤い字は井守(い

自分はちょっと躊躇(ちゅうちょ)した。空から自分らの頭の上へ抛(な)げかけていた。左を見ると最先(さっき)の森が闇の影を、高い左が好(い)いだろう」と小僧が命令した。

自由で不可(いけな)いね」といった。
を森へ近づいてくると、脊中で、「どうも盲目は不知ってるなと考えながら一筋道(ひとすじみち)腹の中では、よく盲目(めくら)のくせに何でも腹の中では、よく盲目(めくら)のくせに何でも

ないか」「だから負(おぶ)ってやるから可(い)いじゃ

い」 にされて不可い。親にまで馬鹿にされるから不可 「負ぶってもらって済まないが、どうも人に馬鹿

ててしまおうと思って急いだ。「何だか厭(いや)になった。早く森へ行って捨

いる。 な」と脊中で独言(ひとりごと)のようにいってな」と脊中で独言(ひとりごと)のようにいって

ざ)けるように答えた。「何がって、知ってるじゃないか」と子供は嘲(あ「何が」と際(きわ)どい声を出して聞いた。

ナれども判然(はつきり)とは分うない。た。

すると何(なん)だか知ってるような気がし出し

る。 しまって、安心しなくってはならないように思え分っては大変だから、分らないうちに早く捨ててそうしてもう少し行けば分るように思える。ただこんな晩であったように思える。けれども判然(はっきり)とは分らない。

自分は益々(ますます)足を早めた。

路はだんだん暗くなる。殆(ほと)んど夢中であ雨は最先(さっき)から降っている。

る。自分は堪(たま)らなくなった。その小僧が自分の子である。そうして盲目であさない鏡のように光っている。と)く照(てら)して、寸分の事実も洩(も)らとかもそれが自分の過去、現在、未来を悉(ことごその小僧が自分の過去、現在、未来を悉(ことごただ脊中に小さい小僧が食付(くっつ)いていて、ただ脊中に小さい小僧が食付(くっつ)いていて、

処だ」 「此処(ここ)だ、此処だ。丁度その杉の根の

森の中へ這入っていた。自分は覚えず留(とま)った。何時(いつ)しか雨の中で小僧の声は判然聞えた。

「文化(ぶんか)五年辰年(たつどし)だろう」「御父さん、その杉の根の処だったね」が)に小僧のいう通り杉の木と見えた。か」に小僧のいう通り杉の木と見えた。

「御前がおれを殺したのは今から丁度百年前だね」

なるほど文化五年辰年らしく思われた。

うに重くなった。一五年の辰年のこんな闇の晩に、この杉の根で、一五年の辰年のこんな闇の晩に、この杉の根で、一五年の辰年のこんな闇の晩に、この杉の根で、一五年の辰年のこんな闇の晩に、この杉の根で、一五年の辰年のこんな闇の晩に、この杉の根で、一五年の辰年のこんな闇の晩に、この杉の根で、一五年の辰年のこんな闇の晩に、この杉の根で、一五年の辰年のこんな闇の晩に、

いが蘇ってくるというものです。こんな晩だったな」といって、昔の人を殺した思ここでは、背中に背負っている子供が急に「丁度

ます。
うので、前世に背負った出来事のように書いてい当然これは物語であり、漱石も100年前とい

区切りとの解釈があるようです。の契約は意味が無いので9年というのが最大のの契約は意味が無いので9年というのが最大の中国では100年というのを無限大という意味中国では100年というのを無限大という意味を持っているのかもしれません。また、この100年というのも第一夜と同じでまた、この100年というのも第一夜と同じで

す。とか「六部殺し」という昔話を思い出すと思いまとの話を読むと、知っておられる方は「こんな晩」

話を2点紹介します。 この後に、地方に残された「こんな晩」という昔

(2) 日本の民話「こんな晩」

青森県 フジパン提供

らっては旅を続けていた。
六部たちは、夜になると親切な家で一晩泊めてもを廻っておまいりをする人のことだ。
ないし、一人の六部(ろくぶ)が旅をしておった。

なった。ので、村はずれの一軒の家に泊めてもらうことにので、村はずれの一軒の家に泊めてもらうことに

たから、今夜はこれで休ませていただきます」夕食を食べ終えた六部は、「大分歩いてつかれまし

と言うと、奥の寝部屋(ねべや)へ入った。

がついている。ところが、夜遅くなっても、六部の部屋のあか

数えていた。からこっそりのぞくと、部屋の中では六部が金をからこっそりのぞくと、部屋の中では六部が金を何をしているのだろうと、家の主人が戸のすき間

てう思った巨人は、てきようで、「マボス」」、己さて金を奪(と)ってやろう』れば一生楽に暮らせる。ようし、あの六部を殺しれば一生楽に暮らせる。ようし、あの六部を殺し『ほほう、たんまり持っているな、あれだけあ

上げ、六部を殺してしもうた。
たところ、主人はいきなり隠していたナタを振りたところ、主人はいきなり隠していたナタを振りたさころ、主人はいきなり隠していたけるを振りたと言って、うまく六部を外へ連れ出した。
と言って、うまく六部を外へ出てみなされ」

と。
主人は、六部から奪った金で商(あきな)いをした。
主人は、六部から奪った金で商(あきな)いをして、またたく間に金持ちになった。
長い間子供が出来なかっただけに、主人は喜んでやがて、この家に子供も生まれた。
ところが、その子は泣き声もたてないし、二つにさっても、三つになっても一言もしゃべらなかった。

の中でむずかった。 子供が五つになったある晩のこと、寝床(ねどこ)

て外へ出た。 主人は、きっと小便だろうと思って、子供を抱い

困っていた。

月の出ていない晩だった。

一言もしゃべらなかった子供が、突然、「早く小便をせいや」と、主人がいうと、今まで

聞くと、主人はびっくりして、とっさに、「何が」「こんな晩だなあ」と言った。

「六部を殺した晩よ」と、子供が言った。

と断わった。

って、主人をにらみつけていた。いつの間にか、子供の顔は殺した六部の顔にな

ま死んでしまったという。
主人はおそろしさのあまり、気を失い、そのま

(3) こんな晩 新潟県十日町市

なかった。その旦那さまというのは、昔からの旦那さまではその旦那さまというのは、昔からの旦那さまがいた。むこんしょ(むかい:、地名)にや、

そしたら、深い訳があったと。何がもとで、そんなに身上があがったのかな?身上(しんしょう)がよくなったんだと。もままならないし、借金はあるし、つい10年ほど前までは、貧乏で貧乏で、食べる米つい10年ほど前までは、貧乏で貧乏で、食べる米

夕暮れになって、 六部が泊まるところがなくてヤ、バシャバシャと降っていた。

院に納経しながら巡礼の旅をした僧侶)(六部:行脚僧。書写した法華経を 66カ所の寺

「ここん衆 [しゅ]、一つ泊めてくんなかい?」と

たとて、もてなしは何も出来ねスケ、だめだ」その家では、「おら、貧乏で貧乏でおまえが泊まっ言って、来たんだと。

لح

くんなかい」
この雨サ当たらなければ何でもいいスケ、「かまわねえ。何でもいいスケ、

泊めて

と六部は頼み込んだ。

になった。そんなのでもよかったら、と、六部は泊まること

みた。 そこのトトは、真夜中に小便に起きて、ふと脇を

障子の破れ目から、こ~う覗いてみた。六部の寝ている部屋にコソン、コソンと近寄って、リーンと銭(ぜに)の音が・・・ 大部の寝ている座敷の方から、チャリーン、チャー

のをしょっている。 六部っていうのは、 笈 [おい] という箱のような・・・そうしたら、銭勘定していたんだと。

その中の竹の筒に金を入れて置くんだと。

なくなった。それを見たトトは、金が欲しくて欲しくてたまら

いつも借金で首が回らない。・・・おらは、貧乏で金など拝んだこともない。

ああ、すぐ目の前に金がうなっている!

・・・これだけの金があれば、一生、楽に暮らせ

心の闇が一瞬にトトを覆った。

りしかけた。悪いこころがトトにささやいて、金を盗むように

敷の隅に六部を埋めた。 外は秋雨が降る丑満時。 六部を殺したトトは、屋

らなかった。 の妄執に取り付かれたトトは 人間のこころに戻の妄執に取り付かれたトトは 人間のこころに戻

誰も見ていないんだもの、構うもんか!

を始めた。 六部が持っていた金を盗んで元手にして、金貸し

があがったんだと。そうこうするうちに、ムキムキ、ムキムキと身上そうこうするうちに、ムキムキ、ムキムキと身上田畑や山を売りたい人がいると、どんどん買った。人に金を貸しては利息で儲け、また人に貸し・・・

だった。 ただ一つ張合いのないことは、子どもの無いこと金もあり、地所もあり 何もいうことがなかった。

どうしようもない。たりするのをみると「子どもが欲しいなあ~」と、たりするのをみると「子どもが欲しいなあ~」と、そこらの人が子どもと手をつないだり、遊んでい

子どもが出来たんだ。毎日、欲しいなあと思い暮らしていると、何と、

子どもは、それも男の子だった。

も、モノを言わない。ところが、その子は3つになっても4つになってて)、それはそれは大事に育てた。ようやく出来た子どもをめじょがって(可愛がっようやく出来た子どもをめじょがって(可愛がっ

い子どもだった。 立つことも出来ない。 腰がフラフラして立てな

んだと。 旦那さまはそれでもその子をめじょがって育てたいニラミナ・ナ

シャバシャと降っていた。その日は、やっぱり朝から雨がバシャバシャ、バ

の闇夜だった。暗い闇夜で、鼻を撫でられても分からないくらい暗がたになったら、もう滝のように降り出した。

て外に出た。 寝る前に小便をさせようと、 息子 (アニ) を抱い・・・こういう晩は、早く子どもを寝かそう。

友。 雨はバシャバシャ、バシャバシャ降る、真っ暗な

トトが、思わず

」。 「馬鹿げに雨は降るし、暗えなあ」 とつぶやい

その時だった。

口を開いた。 今まで一言もモノを言わなかった息子(アニ)が、

さあ、トトは驚いたの何の。くひかり、トトを見てニタニタニタと笑ったと。真っ暗の中で息子(アニ)の面(つら)だけが青「あの晩にそっくりだのし」

- わったんだな。
 ・・・この野郎は、おれが殺した六部が生まれ変
- え。・・・仇打ちに来たんだな。このままじゃ置かね・・・仇打ちに来たんだな。このままじゃ置かね

でも親にはかなわない。それだすけ、いくらかたき打ちで産まれて来たのめじょがっていた息子を殺して、畑に埋めたと。

ていると。は、青い炎(ひ)が、トコトコ、トコトコと燃えは、青い炎(ひ)が、トコトコ、トコトコと燃えその旦那さまの屋敷は、今でも雨の降る暗い晩に親に返り打ちになったってがんだ。

いちげざっくり

な話がたくさん存在します。以上の他にいろいろなパターンで各地に同じよう

ンなどいろいろな話しがあります。幡太郎や平将門伝説などと組み合わせてのパターそんな長者伝説はこの六部殺しとはまた別に、八金で長者になり、そのうちに長者の家が没落する。そのほとんどが六部の殺される話で、その奪った

では、一般的な六部殺しの話をから紹介します。

(4) 六部殺し (Wikipedia)

れている内容は概ね以下のとおりである。は様々なバリエーションが存在するが、広く知らなる旅人とされている場合もある。ストーリーに験者や托鉢僧や座頭や遍路、あるいは行商人や単ずつ奉納して回る巡礼僧のこと。六部ではなく修ず部とは、六十六部の略で、六十六回写経した六部とは、六十六部の略で、六十六回写経した

の宿を請う。 ある村の貧しい百姓家に六部がやって来て一夜

た。その家の夫婦は親切に六部を迎え入れ、もてなし

くてたまらなくなる。
るのを目撃した百姓は、どうしてもその金が欲しその夜、六部の荷物の中に大金の路銀が入ってい

そして、とうとう六部を謀殺して亡骸を処分し、

金を奪った。 で

方法で急速に裕福になる。 田畑を担保に取って高利貸しをする等、何らかのその後、百姓は奪った金を元手に商売を始める・

へ写れて庁…。 つていた。小便がしたいのかと思った父親は便所っていた。小便がしたいのかと思った父親は便所そんなある日、夜中に子供が目を覚まし、むずが子供はいくつになっても口が利けなかった。夫婦の間に子供も生まれた。ところが、生まれた

と同じような天候だった。 雨降りの夜など、ちょうどかつて六部を殺した時きれいな月夜、もしくは月の出ない晩、あるいは

顔つきに変わっていた。 れたのもこんな晩だったな」と言ってあの六部のすると突然、子供が初めて口を開き、「お前に殺さ

後日談が加わる場合もある。する、繁栄していた家が再び没落する、といったここまでで終わる場合もあれば、驚いた男が頓死

けることがある。時代ころに建てられた「六部回国記念碑」を見かさて、各地のお寺や神社を廻ってみると、江戸

碑」を始め、結構あります。 (つづく) ょう。 石岡にも染谷の「大乗妙典日本廻国供養できると、その記念碑が地元に建てられたのでしそして、一般の篤志家が全国 66 箇所を廻ることが

【風の談話室】

やさと暮らし(37)

さと女

イチゴ直売所アラカルト・・・ の行列に並ばないと・・・今年は、殆ど並ばなく の行列に並ばないと・・・今年は、殆ど並ばなく の行列に並ばないと・・・今年は、殆ど並ばなく の行列にがはないと・・・の年は、殆どがはなく の行列にがはないと・・・のかな??? のにたくさん

伝いを(いちごをつまみながら)お客様は皆"いたいを(いちごをつまみながら)お客様は皆"いた々とお客様がやって来る。お年寄りご夫婦 2人次々とお客様がやって来る。お年寄りご夫婦 2人次々とお客様がやって来る。お年寄りご夫婦 2人がかかる。手伝うつもりだったので、早々におぼがかかる。手伝うつもりだったので、早々におぼがかかる。手伝うつもりだったので、早々にお手間がかかる。手伝うつもりだったので、早々にお手間がかかる。明日里山での・春がやって来たような暖かさ。朝日里山での

バを頂き楽しい一日を過ごしました。えない。昼にはソバまつり会場でおいしい10割ソだらキッズ,を求めていた。この甘さが何とも言

ていました。この後お蕎麦を食べて帰るとの事。ていました。この後お蕎麦を食べて帰るとの事。らやって来た方やいちご注人。予約で東京からやっらやって来た方やいちご注りのお客様には、本当らいがはらキッス。のいちごパック完売。遠くかいばらキッス。のいちごパック完売。遠くかいばられていばられているでは、いちご直売所には朝から・一週間後の土曜日、いちご直売所には朝から

た。今日は国会議員の青山大人さんが、国会に持事を思うと辞められないなあ・・・と、呟いていいつ辞めてもいいんだがお客様に喜んでもらえるも高齢、それに昨今の先の見えにくい気候変動、お客様がやって来た。だが此処の主たちお二人とキッズ"がテレビ放映されたとかで、遠くからも・今日のいちご直売所。昨日のTVで"いばら

す。来た。この時期のいちごは特においしい気がしま来た。この時期のいちごは特においしい気がしま4時に、はとバスツアー客がイチゴ狩りにやってって行くのだとかで家族連れでやって来た。午後

くしで暮らせます。
・今日のいちご直売所、中休みなのでつくばのよりで暮らせます。
には、食堂が併設されていて大変な混みよう。海には、食堂が併設されていて大変な混みよう。海には、食堂が併設されていて大変な混みよう。海のが、捌いてあげるよ(ラッキー?)暫くは魚尽が、捌いてあげるよ(ラッキー?)暫くは魚でして暮らせます。

た。合わせて20人も?女子パワー全開・・・。フトサークルの方10人が訪れ、互い に交流をしった、とても可愛いです。今日は友部の方のクラネズミ年、そこでエコクラフトでネズミさんを作で集まる仲間10人の内7人程(老若はある)が、・今年の干支はネズミさん。毎週エコクラフト

・昨年12月にオープンしたイタリアパソ工房によく聞かれる。今度はパネッサさんも紹介ながら、まだ食べた事がないと言うイチゴ直売所ながら、まだ食べた事がないと言うイチゴ直売所ながら、まだ食べた事がないと言うイチゴ直売所ながら、まだ食べた事がないと言うイチゴ直売所はしていると、食事出来るところは近くに住んで居めにです。茶屋のある古民家に入ると、土間に置めにです。茶屋のある古民家に入ると、土間に置めにです。茶屋のある古民家に入ると、土間に置めた、よく聞かれる。今度はパネッサさんも紹介かと、よく聞かれる。今度はパネッサさんも紹介かと、よく聞かれる。今度はパネッサさんも紹介がと、よく聞かれる。

《風の呟き》

或る時代 打田昇

父母としていた。 私の母方祖父は、かつて土浦に在った拘置所の 私の母方祖父は、かつて土浦に在った拘置所の 私の母方祖父は、かつて土浦に在った拘置所の を が生まれて間もなく伝染病に夫婦で感染し共に死 が生まれて間もなく伝染病に夫婦で感染し共に死 が上京し(鉄道は未だ無い)遺骨と幼児二人を 別き取り育ててくれたのである。其の時に叔父夫 場には未だ子が無く、私の母親は叔父夫妻を実の が母としていた。

の官舎に住み込みで働かされたのである。の官舎に住み込みで働かされたのである。つ警視庁に新設された特別高等課長官舎である。つどが行われ、母親が配属?させられたのが、東京どが行われ、母親が配属?させられたのが、東京が二十歳になった時に出頭命令が来た。無学な田が二十歳になった時に出頭命令が来た。無学な田が二十歳になった時に出頭命令が来た。無学な田が二十歳になった。

免職、犯人の卒業した小学校長らが引責辞職など免職、犯人の卒業した小学校長らが引責辞職などと警務部長(後の読売新聞・正力松太郎)が懲戒と警務部長(後の読売新聞・正力松太郎)が懲戒と警務部長(後の読売新聞・正力松太郎)が懲戒と警務部長(後の読売新聞・正力松太郎)が懲戒と警務部長(後の読売新聞・正力松太郎)が懲戒と警務部長(後の読売新聞・正力松太郎)が懲戒と警務部長(後の読売新聞・正力松太郎)が懲戒と警務部長(後の読売新聞・正力松太郎)が懲戒と警務部長(後の読売新聞・正力松太郎)が懲戒と警務部長(後の読売新聞・正力松太郎)が懲戒といる。

と言う不条理な波紋が広がった。

日本は明治維新で世の中を変える筈のところ実日本は明治維新で世の中を変える筈のところ実とになる。

て、国家が有らぬ方向に傾いていたらしい。 角、当時の日本は政局が不安定で景気が落ち付か 角、当時の日本は政局が不安定で景気が落ち付か が来騒動などが起こり、貧富の差が拡大して農村 で政府は其の取り、当時の日本は政局が不安定で景気が落ち付か

転倒したのである。果、折角の大正デモクラシーがバランスを失って果、折角の大正デモクラシーがバランスを失ってのまり天皇を頂く軍部だけが異常に肥大した結

に終わった。 は無く、折角の「大正デモクラシー」も看板倒れ府・将軍から天皇に替わっただけで何も良いこと府・将軍から天皇に替わっただけで何も良いこと府を倒した筈なのだが、庶民にすれば支配者が幕明治維新では、世の中を刷新する名目で徳川幕

和二年に 大正文壇の寵児とも言うべき芥川龍之介は、昭

あったのか… た不安」と書いていたらしい。その不安とは何でた不安」と書いていたらしい。その不安とは何で殺したが、其の中で「将来に対するぼんやりとし「或る旧友へ送る手紙」という遺書を残して自

大正時代は、関東大震災による首都壊滅も暗い大正時代は、関東大震災による首都壊滅も暗いるが、第一次世界大戦への参戦、日露戦争の尾を引くシベリア出兵と其れに起因する尼港惨劇、中国の第二革命など、大多数の国民が知らない間に日本が国際紛争に巻き込まれて行が知らない間に日本が国際紛争に巻き込まれて行が知らない間に日本が国際紛争に巻き込まれて行いるが、第一次世界大戦への参戦、と正時代は、関東大震災による首都壊滅も暗い大正時代は、関東大震災による首都壊滅も暗い大正時代は、関東大震災による首都壊滅も暗い大正時代は、関東大震災による首都壊滅も暗い大正時代は、関東大震災による首都壊滅も暗い

るテコと 折角の民主主義と、其の弾圧と、其れに反発す

てらしい。間もなくる嫌な国家体質が出来たのが大正から昭和にかける嫌な国家体質が出来たのが大正から昭和にかけ

いように、平成から令和に変る。「令」が号令優先にならな

したい。 民主主義が守られる様に「和」の優先でお願い

考える葦

木村進

い。手でも折ることだってできるじゃないか。に例えたものというが、本当のところはわからなまたしっかりと立ち上がる。こんな姿を人間の姿葦は風に逆らわずしなやかに反って強風をかわし、パスカルは「人間は考える葦である」といった。

と日本神話では表現されている。 日本の国は「葦原中国(あしはらのなかつくに)」

常陸風土記でも利根川から霞ヶ浦沿いの信太郡あがたくさん生えていたのだろう。日本国のことだとされている。昔から日本には葦結ぶ中間に存在する国というので、それは現実の葦原中国とは高天原と黄泉の国(死者の国)とを葦は川べりや湿地帯に生える。

る葦であるという。 パスカルの表現では、葦は葦でも、人間は考え たりの地帯を同じ表現をしている。

考えないのは人間ではないということなのか。

ろうか?

ここの庭にロダンの彫刻がいくつか置かれているのだよく知られた「考える人」がすぐに目に飛び込ここの庭にロダンの彫刻がいくつか置かれている。しかがまた、上野に西洋美術館がある。これは松方コまた、上野に西洋美術館がある。これは松方コ

にまた作って「詩人」と名づけた。
よ」とあるそうだが、ロダンは考える人だけを別考える人と同じ小さな像が描かれている。
ここに苦悩する人々などの真ん中の上部にこの「地獄門」というブロンズの門が置かれている。

人なのだ。やはり人間は考える動物だ。考える込む人は詩同じ姿であったのを見つけて感動したものだ。親父に中学の頃に連れて行ってもらったが、

か? さて、考えても結論が出ないときはどうするの

分からなければ知りたいと思い、調べたり、教くてもいい。考えることが大切なのだ。そんなことは簡単だ。分からなければ分からな

でもここで肝心なのは自分の考えでそれを理解えを乞うたり、すればよい。

し、決して鵜呑みにしないことだ。

たのでは考えたってちっとも面白くない。 他人の考えを聞いて、考えもせずに鵜呑みにしてれが考えることだと思っている。

さん出てくるが、右から左に流れていくだけだ。ちっとも知的ではないね。知らないこともたくこれは娯楽だと思っている。私はテレビのクイズ番組などもよく見ているが、

最近の教育も少し気になることが多い。

答えを求めてくる。 今のあまり成績の芳しくない子供たちはすぐに

った気になる。 でも出来ない子は全て教えてもらって勉強をや



【特別企画

贔屓にも大都会とは言えないが、常陸国の国府が

打田昇三の将門記 (四-1)

いついたからであろう。その考えは間違いでは無 ら俺も天皇になれるのではないか?」と素直に思 を独占継承してきた家系に危機感を及ぼす。 の血統を顧みて「桓武天皇から出た家系であるか 伝えてきた。その理由は、力をつけた将門が自分 しかし、そのいずれも平将門を「反逆者」として 史書にも平将門のことが記載されるようになる。 それに基づいて「前太平記」「日本外史」などの歴 いけれども、 平将門の事件を伝えるのは「将門記」であるが、 それを言い出すと既得権として皇位

いた事例が有ったかも知れない。 中には官軍が「奸(かん=悪者) ある。是を「勝てば官軍…」と言うらしいのだが 姿などは残念ながら正しく伝わり難くなるもので いは分離独立を叫んだり統治に異議を唱えたりし あり、時の権威に疑問を持ったり反発したり、或 真意とか決起した者の言いたかったことや本来の いう設定で記録されてしまう。当事者の主張とか た者は全て「賊」に指定され、歴史上では悪者と 清する国が有るけれども、かつては日本も同様で 現代でも気に入らない人物は問答無用で排除粛 軍」に堕落して

に移り更に他国にも及んでゆく。現代の石岡は身 位を狙った極悪人」という評価の侭で置かれた。 の国」として生まれ変った昭和二十年八月迄は「皇 江戸時代前期に齎されながら、日本が「主権在民 に霊が祀られており、其の罪を赦すという勅使が 今回は物語の舞台が武蔵国・下総国から常陸国 平将門の場合も早くから庶民によって神田明神

> り近辺には温泉療養施設があったらしい。事情は 医療機関が有ること」で、常陸国府には医者が居 呼べた都は奈良・京都と常陸国府ぐらいであった ろうか。古代から中世にかけての日本で大都会と 親鸞聖人や日蓮上人が、なぜ石岡を目指したので 果たしたが日蓮上人は身延山から来る途中の太田 認定され極悪人名簿に登録されても仕方がない。 ことになるのであるから、中央政府から反逆者と 兎も角として、平将門は其処を攻めて焼き滅ぼす のかも知れない。大都市の必須条件は「まともな 区池上で没してしまった。将門は兎も角として、 陸国府を目指して居たらしい。親鸞聖人は目的を であったと言われる。其処に将門がやって来る。 時代も目的も違うが、日蓮上人や親鸞聖人も常

○乱人・藤原玄明

現代流に言えばヤリテと呼ばれる人種であろう。 も知れない。努力して其れなりの地位を得たが、 庶流に属する組で早くから常陸国に来ていたのか あった。藤原氏ではあるがエリート階層では無く は常陸国府の中堅幹部職員であり、土着豪族でも ては弁解擁護も難しいが、此の人物「藤原玄明」 仕事は出来ても他人から良くは言われ無い。 こちらも冒頭から「乱人」のレッテルを貼られ

時代に活躍?した国定忠治や清水次郎長のように よりも甚だし…」と書かれているけれども、 「強きを挫き弱きを助ける…」侠客であったのか 将門記の原本には「…其の行いは夷敵(侵略者) 後の

置かれていた頃の此の町は、全盛期の奈良・京都 に勝るとも劣らないと言われた日本屈指の大都市 であったのか…その実態は確かめようが無い。 れたのかも知れないのだが、原本に依れば藤原玄 或いは逆に「弱きを苦しめ自分を助ける…」凶賊 普通に考えれば平将門に接近したから悪人にさ

明は其の指導者と考えられないことも無い。 考えると、この事件は天皇を傀儡とする藤原独裁 問が残る。程なく将門が玄明を庇護したことから としても、前任者は何をしていたのか?という疑 撃して村人を苦しめていた…と原本には書かれて 現代でも公費や公用車を私的に使う立派な首長が 明は其の地位を利用して収穫期に領内を回り農作 政権の下で発生した小規模な抵抗運動であり、 いるが、国司の藤原維幾は着任早々という立場だ か国府に反抗する様に各地の年貢集積所などを襲 したのだが玄明は無視して従わない。それどころ 国府に出頭しなさい!」と公文書で何度か通告を 藤原維幾)は「横領した収穫物(税金)を返却し、 其の様なものであったろう…と理解はしている。 居るくらいであるから、概して当時の高級役人は る…などの悪行を繰り返したことになっている。 を回る役人を脅して納付先を自分の館に変更させ 物を「税」として押収し、或いは収税の為に現地 是に対し上司である国府の長(平貞盛の叔父・

語の進行から考えれば霞が浦説を取りたい。 が霞ヶ浦沿岸部説と茨城県北説とがあるらしく物 藤原玄明の屋敷が何処に在ったのか明確ではない ることを知った玄明は妻子を連れて屋敷を出た。 でも同じ行動をとるであろうが、国府の役人が来 るのを待っているほど暇では無い。現代の容疑者 えようとした。是を知った玄明も静かに逮捕され 司代理の藤原維幾は、実力行使で藤原玄明を捕ら 一方、立場からすれば当然のことながら常陸

残念でしたね!」と丁寧に突っぱねた。明は来ましたが既に此処を去ってしまいました。師も是を殺さず」という諺を引用して「確かに玄のである。是に対して将門は「窮鳥懐に入れば猟のである。是に対して将門は「窮鳥懐に入れば猟がある。是に対して将門は「窮鳥懐に入れば猟がある。という噂が立ったので国府側で許に逃げ込んだ!という噂が立ったので国府側で許に逃げ込んだ!という噂が立ったので国府側で許に逃げ込んだ!という噂が立ったので国府側で

じていた…」と将門記に書かれてしまった。 奪を繰り返して自分の家族に与え、領民からは収ら金品を奪って自分の家族に与え、領民からは収ら金品を奪って自分の家族に与え、領民からは収ら金品を奪って自分の家族に与え、領民からは収回が成護した藤原玄明は)国にとって積年 国府の役人には是が馬鹿にされたように思えて

た平将門は逆手を取って進攻して来るのである。に伝わる。藤原玄明のことで常陸国府から疑われではあるが、その情報はいつしか漏れて将門陣営なら軍勢も常駐して居り、従兄弟も居るから安全して来た叔父を頼り国府に身を寄せて来た。国府地元に隠れる場所が無い貞盛は常陸介として着任地元に隠れる場所が無い貞盛は常陸介として着任地元に隠れる場所が無い貞盛は常陸介として着任

○常陸国庁襲撃

原本の書出しは「(平将門が)部内の干戈(武器・原本の書出しは「(平将門が)部内の干戈(武器・原本の書出しは「(平将門が)部内の干戈(武器・原本の書出しは「(平将門が)部内の干戈(武器・原本の書出しは「(平将門が)部内の干戈(武器・原本の書出しは「(平将門が)部内の干戈(武器・原本の書出しは「(平将門が)部内の干戈(武器・原本の書出しは「(平将門が)部内の干戈(武器・原本の書出しは「(平将門が)部内の干戈(武器・原本の書出しは「(平将門が)部内の干戈(武器・原本の書出しは「(平将門が)部内の干戈(武器・原本の書出しば「平将門が)部内の干戈(武器・原本の書出しば「平将門が)部内の干戈(武器・原本の書出しば「平将門が)部内の手式(武器・原本の書出しば「平将門が)部内の手式(武器・原本の書出しば「平将門が」部内の手式(武器・原本の書出しば「平将門が」部内の手式(武器・原本の書出しば「平将門が」部内の手式(武器・原本の書出しば「平将門が」)部内の手式(武器・原本の書出しば「平将門が」)の手式(武器・原本の書出しば「平将門が」)の手式(正述を呼ばいる)を表しばいる。

双方納得の上で合戦を展開したことになる。陸国府が平将門の奇襲攻撃を受けた訳では無くて…」状態であるから、伝説で言われている様に常て警護を備えて(事前準備をして)将門を相待つてれに対して、待ち構える常陸国府側は「兼ね

派遣して次の様に国府側へ申し入れをした。来る恋瀬川畔に出たのであろう。将門軍は軍使をおるが多分、鬼怒川・小貝川・桜川を越えてから筑て無いから将門軍がどの方面から来たか不明であ原本には「常陸国に渉(わた)る」としか書い

きたい…この通りお願いを申し上げる…」下げて、元通り常陸国内に住むことを許可して頂いますが、どうか彼らに対する追捕の沙汰を取りれて其の釈明に来たのです。御不満は有るかと思より敵とされている藤原玄明に同情し、本人を連より敵とは国府を攻撃に来たのでは無く、誤解に

見たのだと思われる。常陸国府は高台に在るのでき渡せ」とは作戦上から言わずに国府側の出方を最初から「匿って(かくまって)いる貞盛を引

無責任に宣戦布告をしたのである。 無責任に宣戦布告をしたのである。 無責任に宣戦布告をしたのである。 国府財軍の戦力を過信して を取り囲もうとするようだが兵力は少ない。貞盛 を取り囲もうとするようだが兵力は少ない。貞盛 を取り囲もうとするようだが兵力は少ない。貞盛 を取り囲もうとするようだが兵力は少ない。貞盛

陸国府庁舎に一斉攻撃を掛けるしかない。軍は兵力が少なくても相手側の御希望に沿って常たの機会にしましょう」とは言わない。平将門のする相手側から「合戦をしよう!」と言われて「ます国が関係国の時代で無くても、武力を持つ集団が対峙

は次の様であったと推測される。 は次の様であったと推測される。 は次の様であったと推測される。 は次の様であったと推測される。 は次の様であったと書きたいところだが、どういと討たれて全滅!と書きたいところだが、どういと討たれて全滅!と書きたいところだが、どういと討たれて全滅!と書きたいところだが、どういと対の様であったと推測される。

させていたのであろうから宣戦布告をした時点で迎え討つ国府側は多分、数千の兵力を国衙に集結には堀が巡らされていたと思われる。平将門軍を国衙の周りは城のように護られており其の外側

子引重は引げてに置って対重には舞り、引来るのを待っていて勝機を失したのだと思う。撃すれば良いのだが、作戦を知らない。将門軍が一部の兵を差し向け恋瀬川を渡河して来る敵を迎

況不利を覚り早々と行方を晦ましてしまった。 特門軍は国府庁舎に籠った敵軍には構わず、国 将門軍は国府庁舎に籠った敵軍には構わず、国 将門軍は国府庁舎に籠った敵軍には がこないけれども、国府軍は為す術も無く国司以 がえないけれども、国府軍は為す術も無く国司以 がえないけれども、国府軍は為す術も無く国司以 がえないけれども、国府軍は為す術も無く国司以 がえないけれども、国府軍は為す術も無く国司以 がえないけれども、国府軍は為す術も無く国司以 がえないけれども、国府軍は為す術も無く国 がここでには がここである。 当時、三百余戸の家々が はここである。 がの町に健みして其の全域を占領したのである。

を下げて助命嘆願を繰り返すしかない。 お門の軍勢は雪崩の如く常陸国府に乱入したと 将門の軍勢は雪崩の如く常陸国府に乱入したと 将門の軍勢は雪崩の如く常陸国府に乱入したと 将門の軍勢は雪崩の如く常陸国府に乱入したと 将門の軍勢は雪崩の如く常陸国府に乱入したと

常陸国府には国分寺と国分尼寺が置かれていたといり、大学の学院では、大学の学に渡るのであるから、常陸国の庶る者が居ないから略奪された絹は一万五千反に及る者が居ないから略奪された絹は一万五千反に及る者が居ないから略奪された絹は一万五千反に及る者が居ないから略奪された絹は一万五千反に及る者が居ないから略奪された絹は一万五千反に及る者が居ないが、事件が無ければ絹の山は都を高の大学の手が置かれている。将門から集めて都へ送る絹が山積みされている。将門から集めて都へ送る絹が山積みされている。将門から集めて都へ送る絹が山積みされていた。

じ様な事例が有るから非難や軽蔑は出来ない出来なかったのである。然し、昭和十六年にも同将門に対して偉そうに宣戦布告をしただけで何も財産も奪われたであろう。常陸介・藤原維幾は平財産の、将門の軍勢は僧や尼僧の許にも押しかけてから、将門の軍勢は僧や尼僧の許にも押しかけて

領を経験した歴史を持っていた都市である。 占領軍の捕虜となった常陸国府の役人たちは身 と思われる平貞盛と藤原為憲(維幾の息子) 世たと思われる平貞盛と藤原為憲(維幾の息子) で出て来た目的の一つに貞盛との対決が有ったと 思われるので将門軍は引き揚げない。其の侭、国 思われるので将門軍は引き揚げない。其の侭、国 思われるので将門軍は引き揚げない。其の侭、国 とのである。石岡 とのである。石岡 とのである。 とのが、 とのが、

している他は無かったのであろう。
て残ることが出来た常陸国府の下級職員たちは、

成として下総国へ引き揚げることとした。懇願しは常陸国府の国印と国庫の鍵を没収し国司らを捕は常陸国府の国印と国庫の鍵を没収し国司らを捕

のサービスを受けられる筈が無い。 下総国、つまり将門の本拠・豊田 (鎌輪) に連下総国、つまり将門の本拠・豊田 (鎌輪) に連下総国、つまり将門の本拠・豊田 (鎌輪) に連下総国、つまり将門の本拠・豊田 (鎌輪) に連ぶないにないがらず」とある。当然のことで同情は出しむるに、愍労(びんろう)を加ふと雖も寝食穏しむるに、愍労(びんろう)を加ふと雖も寝食穏しむるに、愍労(びんろう)を加ふと雖も寝食穏にない。

藤原維幾は平将門の伯

父であり高級官僚

なってしまうのである。気の毒ではあるが…。なってしまうのである。気の毒ではあるが…。常陸・上総・上野の三か国は「親王任国」と言いだをしたようにも思えるが、国家権力への立派なとをしたようにも思えるが、国家権力への立派なとをしたようにも思えるが、国家権力への立派なとをしたようにも思えるが、国家権力への立派なとをしたようにも思えるが、国家権力への立派なとをしたようにも思えるが、国家権力への立派なとをしたようにも思えるが、国家権力への立派などをしたようにも思えるが、国家権力への立派などをしたようにも思えるが、国家権力への立派などをしたようにも思えるが、国家権力への立派などをしたようには悪いが、国家のようには悪いが、国家の書ではあるが…。

続く

ふるさと風の会会員募集中!

当会では、「ふるさと(霞ヶ浦を中心とした周辺地域)の歴史・文化の再発見と創造を考える」仲間達を募集しております。 自分達の住む国の暮らしと文化について真面目に考え、声高 くふるさとを語り、考える方々の入会をお待ちしております。 会の集まりは、月初めに会報作りを兼ねた懇親会と月末に雑 談:勉強会を行っております。

会費は月額 2,000 円。(会報印刷等の諸経費)

※入会に関するお問い合わせは下記会員まで。

打田 昇三 0299-22-4400 兼平智惠子 0299-26-7178 伊東 弓子 0299-26-1659 木村 進 080-3381-0297 編集事務局 〒315-0014 石岡市国府 4-3-32 (木村)

HP http://www.furusato-kaze.com/